

岐大通 2011



today's guest
京都サンガ
2010 J1 第17位
初対戦

2011J2 順位表 第1節 変則 勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の 戦績 (岐阜から視点)

1 千葉	27p	+11	24	13	A
2 栃木	27p	+11	23	12	
3 FC東京	25p	+6	16	10	
4 徳島	24p	+6	19	13	H
5 熊本	23p	+4	13	9	A
6 鳥栖	21p	+9	19	10	A
7 愛媛	21p	+2	17	15	A
8 草津	19p	0	19	19	
9 東京V	18p	+8	23	15	H
10 湘南	18p	-3	12	15	H
11 札幌	17p	0	9	9	H
12 北九州	17p	-6	10	16	
13 鳥取	16p	+2	14	12	A
14 大分	16p	-2	13	15	H
15 水戸	16p	-3	14	17	H
16 京都	12p	-4	13	17	
17 横浜FC	12p	-4	12	16	A
18 岡山	12p	-10	13	23	
19 富山	10p	-14	9	21	A
20 岐阜	05p	-15	8	23	---

次回 HomeGame

第2節
栃木 SC戦

7/23(土) 18:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)
7/3号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での
発行を目標にしますので、よろしくお
願い致します。

2011 J.League Division2 第1節 京都サンガ戦

7/3(日) 19:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

7試合ぶりの『勝ち点1』。 鳥取1-岐阜【第02節】

FC岐阜はアウェイで鳥取と対戦し1対1で引き分け。連敗は止まった!あとは勝つのみ!今こそサポーターが一丸となって戦う時。FC岐阜頑張れ!(ハマッチ)

優大のシュートがサイド・ネットを叩き、間髪を入れずに試合終了のホイッスル。現地であれ、モニターの前であれ、その場面を見ていた岐阜サポ全員が望んだ結末は訪れなかった。サヨナラ・ゴールならず。勝ちたかった。勝てた試合だった。しかし、終わったあとで「悔しいっ!残念だっ!!」と思える試合もいつ以来かな?(苦笑)

いろいろ意見はあるだろうけど、こういう試合が見られれば納得。決して、満足じゃないけどね。やっぱり、ゴールが決まると体中の血が滾る。それも、フォア・チェックからのボール奪取、サイド・チェンジにワンタッチ・クロス。上がった瞬間からゴールが予見されるような軌道を描いたボールを、これまた鮮やかにマークを外した洗一が叩き込む。前節に引き続いての球技専用スタジアム。そして、ベアスタよりもフェンスからピッチまでの距離が近く、さらにスタンドもあまり高くないため、その瞬間のネットの揺れる音が聞こえたような錯覚すら感じたがそれも一瞬。横浜戦以来の先制点。それも、流れの中からの得点にゴール裏の歓喜は弾け飛んだ。

この試合。得点こそ決められなかったものの、前半は圧倒的に岐阜のペース。2試合ぶりにスタメン復帰した秋田は、かつての主戦場で昔の戦友とサポーターにその雄姿を披露できたのではないかと。前半終了間際にあわやのシュートを撃たれたものの、それを除けばほぼ満点の出来。逆にハーフ・タイムには「本当に4-0で勝ったのか?湘南に?」と鳥取のことが心配になるくらい。まあ、そんなよけいな心配をしてしまったせいか、得点までの約10分と終了までの約10分以外の30分間は、ほぼ一方的な鳥取の時間。交代出場した鳥取FWハメドの、反対側からはバーの上を越したかのように見えたループシュートがポストに弾かれた場面は心臓が締めつけられるような感じだった。

公式によると、シュート数は岐阜が12で鳥取が10。ただし、前半は10-2ということは、後半の岐阜のシュートはわずかに2本。つまり、洗一のゴール以降冒頭の優大まで(公式上は)ただの一本もシュートを撃てなかったということになる。逆転されなくてよかったよ、かな?それでも、前述のハメド、そしてもう一人のブラジル人選手に翻弄されかかりつつも、勝ち越し点を許さなかったことは評価したい。その粘りが最終盤の攻勢につながったといえるんじゃないだろうか。

前半の鳥取の不出来については、前節が鳥取の日曜に対して岐阜が土曜の開催であったことのコンディションの差という意見もあった。十分ありえる話だとは思いますが、鳥取のアウェイホームに対し、岐阜はアウェイ連戦。そんなに差はないんじゃないの?という見方もできる。たしかに、鳥取は「前半死んだ振り」をしていたのかもしれない。それは、コンディション面での事情を考慮したのかもしれないし、J参入の今季、ここまでそれなりの成績を残している余裕があったのかもしれない。そして、もしかしたら、腹立たしいことだけど、最下位の岐阜が相手だからという気持ちがあったのかもしれない。

ただ、今の岐阜にはいろんな意味での余裕がなく、相手の出方を見ているうちに失点をしてしまえば、ますます袋小路にはまってしまう恐れがある。これからの季節、鳥取戦のような戦い方をしている試合の終盤、あるいは秋以降ガス欠になってしまうこと請け合いだけど、それでもゴールや勝利がパワーに変わるかもしれない。早く「オトナなサッカー」が見たいと思うのだけど、今は今できることをがむしゃらにやるしかないのかな。毎試合走り続けている正吾や染矢を始め、闘う選手達に少しでもエネルギーを与えられるよう、これからもできる限りスタジアムに来て、精一杯声を出して後押ししたい。それから、橋本とブルーノが無事でありますように……。怪我をしている選手が一日も早く復帰できますように……。

あ、あとひとつだけ。洗一の交代は正解だったのかな?確かに疲れてはいたと思う。でも、「ノッたら、手をつけられない」とまでは言わないけれど、気分が左右されるといっつ波に乗りつづあつたところの交代だったのが気になる。で、そういう予感だけは当たるっていうね……。なんともはや……。(ぐん、)

岐阜駅の近くでテレビ観戦したのだけど、開始から5分で「これはマズい」と思った。序盤から運動量で圧倒して鳥取陣に襲い掛かる。岐阜は中3日、鳥取は中2日という条件の違いを考えたら、序盤でたたみかける戦略は間違っていない。問題は、たたみかけるだけじゃなく、その圧倒した前半で2点は取っておかなければならないのだけど、残念ながら得点は後半の洗一のゴールだけ。ピンポイントのクロスにどんぴしゃヘッドは見事だったけど、相手がハメドやドドといった強力攻撃手をサブに置いていたのを考えたら1点では不安。案の定、ハメド投入と時を同じくしてFC岐阜は防戦一方になってしまった。最後の最後に決勝ゴール!!の絵も浮かんだんだけどね……。

これがFC岐阜の『現在位置』なんだろうなあ。相手の状態によっては、圧倒出来る時間帯ももちろんある。でも、前半からたたみかければ後半はピタッと止まる。後半に温存すれば前半にやられる。そして、圧倒出来る時間帯でも、残念ながらゴールはあまり生まれぬ。

必要なのは「勝負強さ」か。相手を0点に抑え、少ないシュートでも1ゴールを挙げれば勝ち点3が手に入る。サッカーって、決して相手を圧倒する時間の多少を争う競技でもなければ、圧倒した度合いを判定する競技でもないのだから。(吉田鑄造)

“記念碑”的な、『ひどい』試合。 岐阜 1-3札幌【第1節】

FC岐阜は長良川で札幌戦と対戦し1対3で敗戦。前半で0対3とされてはもはや手はなし。今こそ選手とサポーターが一丸となって戦う時。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

「4連敗中」という文字が実に重くのしかかるFC岐阜。しかし、直前のアウェイ千葉戦は首位との実力差を痛感させられた試合内容だったと思うが、その前のホーム湘南戦は、負けたとはいえ（これまでと比べれば）酷い内容ではなかった。その湘南は4位、今回の対戦相手の札幌は現在12位。ホームでこれ以上負ける訳にはいかないし、19位との勝ち点差は4。これ以上離される訳にもいかない。

スタメンもボランチに今季初出場の新井、FWには初先発のブルーノと変化を見せてきた。選手たちも執念を見せてくれる...と、僕は気合充分で勝利を信じていた。

ところが、だ。試合開始早々、左サイドからのクロスボールをゴール前で競り負け、相手#10宮澤のヘッド。そのボールはゴールポストに弾かれたが、更に宮澤に押し込まれて失点という、最悪の試合開始。クロスを競って飛んだ相手選手が最初にボールに触って、周りにいたウチのDF陣の何人かはボールウォッチャーってのは何故だ？公式では前半2分となっていたが、録画を確認してみると、わずか5秒での失点。正直、僕は唖然としてしまった。

浮き足だってしまったチームは、先制点で調子づいた札幌に更に押し込まれていく。とはいえ、徐々に流れを引き寄せていた3分。今度はなんと村尾が足でトラップしたボールの処理をミスし、そのままオウンゴール。味方のバックパスでもなく、しかも雨で滑りやすくなっているピッチでの不用意なプレー。折角よくなってきた時間帯で、最悪の追加点を許してしまった。そして3分。DF陣の連携ミスで、野垣内がGKに渡そうとしたボールを相手に奪われ、3失点目。前半で3失点というのも酷いが、その失点シーンがどれも酷いミスによるものとは...

後半になると、致命的なミスは見られなくなるが、しかしそれは札幌がリスクを冒して攻撃をしてこなくなったからのように思う。75分にはPKで1点を返すが、これもボールのバウンドが変わったところの処理を相手がミスしてハンドでのPK献上によるもの。お互いに決定的なチャンスもピンチもほぼないまま、試合終了。前半に自滅で試合を終わらせてしまい、これで5連敗となってしまった。

開始早々に失点していることが目に見えて感じられた。前を向いてチャレンジするのではなく、いたずらにバックパスをして相手の守備を固めさせてしまうなどの消極的なプレーが目立ったし、全員が走り切れていないのでボールを持ってもフォローがなく、孤立してしまっている。また、守備面での連携ミスというか、意識の統一不足は致命的だ。FWやMFの選手はいろいろと組み合わせを試しているのだから、是非とも次々に選手を試していって欲しい。そうして選手たちの競争意識を高めることが、今の悪循環から抜け出す近道なのではないだろうか。（ささたく）

前半4分で3回も抜かれるサイドバック。結構な数のサッカーの試合を生観戦してるけど、過去に視たことがなかったかもしれないGKのオウンゴール。試合が終わってから、バックスタンドのサポーターからブーイングは聞こえなかった。聞こえてきたのは、それぞれが憤りをそのままのカタチで噴出したかのような『怒号』と『罵声』だった。メインスタンドからはあまり聞こえなかったけど、それはお客さんが帰ってしまったからだろう。

シーズン中に「いい内容の試合」と「悪い内容の試合」があるのはわかっている。今年のFC岐阜もそうだ。でも、その「いい」「悪い」はあくまで『今年のFC岐阜』の中での比較であって、一般的に考えたら「悪い試合」と「とても悪い試合」の2種類、ということになるだろうか。そして、その中でもこの札幌戦は「とてつもなく悪い内容の試合」だった。それも、記念碑を建てていくくらいの悪い内容だ。

FC岐阜の選手もスタッフも、「来年は」1昇格争いに参加する」とかの目標より、自分たちが「何を売っているのか」を、もう一度考え直して欲しい。まだ、買ってくれるひとがいるうちに。（吉田鑄造）

いや、なんかモノスゴイものを見せていただきました。J1、J2合わせて年間680を超える試合があるけれど、そのうちに一度あるかないか？というような信じられないミスが、前半だけで2つも出たらそりゃあ勝てませんよね（苦笑）。当の本人も、何でそうなったのか、よくわからないんじゃないかな？要は、基本的に忠実に。自陣のゴールに近いところでは確実に安全に。手が使える選手は手を使う。当たり前のことだけど、それをまず、しっかりやろう。

まあ、察するにチームの状況が悪いから先取点が欲しい、当然先に失点するわけにはいかない。そんな中で慎重に行こうとしたところが災いしたか、何もしてないうちにあっさり失点。しかも、またもやボール・ウォッチャーになってしまった。普通なら、時間はタプリーあるし「0-0のつもりで」と切り替えればいいところを、選手全員とまでは言わないまでもDFラインはパニックになっちゃったのかな？試合前に某所で「今の岐阜にはピッチ上でのリーダー、戦意を鼓舞する選手がいない。」という話を聞いたばかりだったけど、その辺りが如実に現れたのかもしれない。

もっとも、パニックってたというか試合が見えていなかったのはボクも同じで、2失点目は味方のバックパスか、札幌のキックか判断が難しかったんじゃないか、なんて思ってたし、3点とも前半2分以内の出来事だと思い込んでた。まったく、なにをかいわんや、です。おまけに、この試合は「試合前に水を撒いたのか？撒き過ぎたのか？」というくらいピッチ・コンディションが悪かった。3失点目は、それを考えての浮き球のパス（たぶん）だったのが、処理を誤ってしまった.....のかもしれない。しかし、それを「アマチュア・レベルのミス」と言うのは、どうなんだろう？

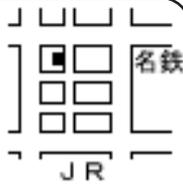
新聞報道などで見聞きしただけなので実際そういう発言があったのか、どんな流れなのかはわからないけど、アレを見たアマチュアの指導者の方々は思わず苦笑、失笑したんじゃないのかな？だって、アマチュアでもお目にかかれないミスだと思うよ？普段から、基本を無視したプレーをすればキツク叱られるんだろうし。プロとして恥ずかしいとか、失格ならわかるけど。

とはいえ、ミスした選手もJリーガーになるくらいの選手。サッカーを始めた頃から抜きん出たモノがあって、それなりの結果を残したから、今ここに在るワケで。きっと、これまでに経験したことのない大失態だったんだろうということは想像するに難くない。負のスパイラルというか、悪い時には悪いことが重なるものだけれど、それでも試合はやってくるわけだし、リーダーがいなければ全員が声を掛け合ってフォローしていかなければならない。もちろん、それは選手だけに求められることではないはず。「応援する人間は、戦う人間より強くなければならない」という一文を目にしたことがある。～ねばならない、という言い方は好きではないですけど、それなら「より、強くありたい。」そういう気持ちを持って、これからも現地に立ち続けたいと思った次第です。

ただし。昼間の某所では「厳しい意見をぶつけてください」というお話もありました。試合にミスはつきものですが、そこを個人攻撃するつもりもありません。でも、雰囲気が悪い時は、通常よりも強くモチベーションを保たなければ状況を打開することは困難です。それを与え、よりどころとなる戦術、戦略を与えるのは誰の仕事なのか？選手の個人能力が足りない、資金が足りない。それはわかっていますが、果たしてそれは、去年や一昨年より成績が劣ることの理由になるのでしょうか？

ボクが「厳しい意見をぶつけない。」のは選手に対して、ではありませんよ？今西社長。（ぐん、）

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：日曜日（今日はお休みです）



さすがに“アレ”程ひどくはなかった...が。 鳥栖2-0岐阜【第18節】

FC岐阜はアウェイで鳥栖と対戦し0対2で敗戦。今とはかく我慢の時。今こそサポーターが一丸となって戦う時。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

鳥栖のホーム・ベストアメニスタジアムは個人的に好きなスタジアムの一つだ。専用スタジアムで臨場感はあるし屋根付きで傾斜のあるスタンドなので非常に見やすい。もちろん、5連敗中だから厳しい試合になることは覚悟しているが...

スタメンは、押谷が怪我をしたということで、久々の光一・優大の2トップ。また、CB秋田の累積欠場により、野垣内が左SB CBに、その左SBには村上。前節の札幌戦での惨敗が何となくトラウマになって（苦笑）、どうなることかと思っただが、前節の汚名挽回とばかりに、試合開始から選手たちは気迫を見せたプレーで攻め込んだ。その対応に後手に回っていた鳥栖だったが、2分、ファールでウチの動きが止まった隙をつかれ、マークが付ききれていないところをワンツースでサイドから切り込んできた相手MFに振り切られてG村尾と1対1になり、失点。その後、3分には相手FWにヘッドでネットを揺らされ、やられた...と思ったのだが、戻りオフサイド？でノーゴールの判定に助けられた。

それにしても...4分、優大がゴール前でフリーになり、決定的チャンスとなったシーン...Gの出した足に惜しくも阻まれてしまったんだけど、あそこはトラップせずに足を振り抜いて欲しかった。とはいえ、久しぶりに「うぎゃー！」と叫び声を上げたような気がする（苦笑）。

後半開始から、岐阜は橋本とブルーノを投入して攻撃に変化をつける。しかし後半5分、ゴール前で相手FWがボールを受けると、素早いターンから足を振り抜かれて2失点目。その後、岐阜も追いつこうとするが、相手の素早いボール回しや激しい攻守の切り替えに徐々に足が止まり、試合終了。チームワーストタイの6連敗と同時に、相手の鳥栖にはホーム通算100勝をプレゼントするという、実に悔しい結果になってしまった。

確かに、選手たちの動きは前節よりは良くなっていた（というか、前節より酷かったら話にならないのだが）。しかし、サイド攻撃を意識しすぎるあまりか、自分が中央突破やシュートが狙える場面でも消極的にサイドに流してしまう局面が何度かあったように思うし、サイドに選手が固まっているので、中央では相手にボールを支配されていたのではないだろうか。また、ボールが前のスペースではなく足下にばかり行って、前を向く機会を自分たちで潰しているようだった。

この6連敗中、チーム・選手たちは、自分たちに何が出来て何が出来なかったのか、きちんと分析してほしい。そしてそれを、チーム全体の意識として共有してほしい。

個人的には、やはり6戦でわずかセットプレーとPKの1点ずつしか得点できていないことが、選手たちの自信をどんどん失わせてしまう一因になっている気がする。『まず1点』、その気持ちで積極的にシュートを狙って欲しい。自明の理だが、シュートを撃たなければゴールは生まれないのだし、ゴールがなければ勝利も得られないのだから。（ささたく）

実は、あと3つで『600』です。
たぶん。

クラブが公式情報を出していないので、県協会にお伺いして調べたり、図書館で新聞の縮刷版を読んだりの手集計によるデータなんて間違っていたら申し訳ないのですが、クラブ創設から1年目、岐阜県リーグ1部時代から通算するとFC岐阜は公式戦で597ゴールを挙げている、はずです。今シーズンが始まる時点では600ゴールまであと11、はっきり言っちゃおうと、こんなに時間がかかるなんて思ってなかった（苦笑）なのですが、とにかくあと3つで通算600です。今日、この試合で一気に3ゴールをゲットして600に到達しちゃうってのはどうでしょう？09年の岡山戦（長良川）以来のハットトリック（西川優大）でも全然OK！でも、3点取っても4点取られて結局は負け...ってのはカンベンね（笑）。（吉田铸造）

残念ながら、またも敗戦。千葉戦の20周年記念に引き続き、今度は鳥栖にホーム通算100勝目をプレゼントすることになってしまった。ただ、前節の札幌戦とは違い、選手は集中して闘ってくれたと思う。録画を見返しても、鳥栖の一点目は最終ラインからのワンタッチ・パスを3本つなぎ、さらにスルーやウェーブを駆使した5~6人の選手が連動した美しくも鮮やかなゴール。あれは仕方ないよね。

とりわけ、札幌戦では痛恨のミスをしてしまった村尾は失点の数分前、相手との一対一の場面で積極的に前に飛び出しコースを消すことによって、シュートは撃たれたものの枠を外させるというビッグ・プレーを披露。J1の首位を走る柏からレンタル移籍してきた川浪を起用する手もあったろうが、あえてスタメンに選んでくれた首脳陣の期待に応えたという所だろうか。

こういうシーンが見られるのも球技専用スタジアムの醍醐味で、まったくいつ訪れても鳥栖の本拠地、通称ベアスタはその立地条件も含めて、国内最高級のスタジアムだなあと感嘆せずにはいられない。鳥栖駅のホームからその全貌が拝めて、陸橋を渡ってすぐがホーム・ゴール裏の入場口。本当にうらやましくてしかたがない（苦笑）。

試合に戻ると、守備はそれなりに粘り強く対応ができていたと思うし、少なくとも札幌戦のような、試合の体を成していない試合でもお金を取るワケにはいかない試合でもなかった（爆）。ただ、攻撃的には決定的な場面が少なく、シュートをためらってパスを出すような場面も見受けられたのは残念だった。シュートを撃たなければ、何も起こらない。シュートを撃つから何かが起こる。前節、身をもってそれを知ったはずなんだけど（苦笑）。

それでも、決定機がまったくなかったわけじゃない。先取点を許した後、優大が突っ込んだ場面。得点とそうでないのを分けたのは余裕。鳥栖が狙い済ましてゴールを決めたのに対し、優大は必死になって足を出した。その辺が鳥栖とウチの違い。順位に現れる力量の差、なのかなあ.....？

ともあれ、通算100勝おめでとう！サガン鳥栖。26試合目での達成だとか。岐阜は現在50勝手前。早いとこ、その場面に立ち会いたいもんだね。（ぐん、）

【ユース】県リーグ戦が始まる

我らがFC岐阜ユースU-18は岐阜県の高校サッカーの県リーグである「Gリーグ」3部の対戦が始まっています。G3リーグはまず前期として6チームでの総当りのリーグ戦が9月初旬まで行われます。そして各グループの上位2チームが後期に進み、4チーム毎にグループを組んでリーグ戦を行い、各グループ1位のチームのみが来年G2リーグに進む事が出来きます。

6月18日に初戦の岐阜東高校戦がありました。雨が降る中でのバッドコンディションのグラウンドで試合は行われたそうですが、終わってみれば3対1で見事勝利！（パチパチパチ）これからも決して驕ることなく一戦ずつ着実に勝利を重ねて行ってもらいたいです。FORZA! FC岐阜ユースU-18!!（シュナ）



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど...

心の花が咲く...

何も無い店だけど...

心癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）